

左の文章をよく読んで、後の設問に答えなさい。

人びとはバラバラなままで生きていく。価値観は多様化する。ライフスタイルは様々になる。それは悪いことではないだろう。日本人はこれからどんどんと、バラバラになっていく。

しかし、人間は社会的な生き物なので、バラバラだけでは生きていけない。私たちはどうしても、社会生活を営んでいくうえで、地域社会で決めていかななくてはならないことがある。

いままでは、少なくとも一九八〇年代までは、遠くで（霞が関で）、誰かが（官僚が）決めてくれていたことに、何となく従っていれば、いろいろ小さな不都合はあったとしても、だいたい、みんなが幸せになれる社会だった。しかし、いまは、自分たちで自分たちの地域のことについて判断をし、責任を持たなければならぬ。その判断を誤ると、夕張市のように自治体でさえも潰れる時代が来てしまったのだ。

ただ、この一点が変わったために、日本人に要求されているコミュニケーション能力の質が、いま、大きく変わりつつあるのだと思う。いままでは、遠くで誰かが決めていることを何となく理解する能力、空気を読むといった能力、あるいは集団論でいえば「心を一つに」「一致団結」といった「価値観を一つにする方向のコミュニケーション能力」が求められてきた。

しかし、もう日本人はバラバラなのだ。

さらに、日本のこの狭い国土に住むのは、決して日本文化を前提とした人びとだけではない。

だから、この新しい時代には、「バラバラな人間が、価値観はバラバラなままで、どうにかしてうまくやっていく能力」が求められている。

私はこれを、「協調性から社交性へ」と呼んできた。

「平田君は、自分の好きなことは一生懸命、集中して頑張るけれども、どうも協調性に欠けるようです」と小学校一年生から通信簿に書かれてきたような人間が、作家や芸術家になる。私自身、自分の好きなことしかやってこなかったし、協調性はないものと自覚している。

しかし、演劇は集団で行う芸術なので、演劇人には「社交性」はあるのだ。私たちは、幕が下りるまではどんな嫌な奴とでも、どうにかして仲良くする。プロの世界などはひどいもので、舞台上では、「あなたがいなければ死んでしまうわ」と言っている、楽屋に帰ればそっぽを向いている連中もたくさんいる。それでいい舞台ができるのなら、私としてはまったくかまわない。これもまた「社交性」だ。

しかしこの社交性という概念は、これまでの日本社会では「上辺だけのつきあい」「表面上の交際」といったマイナスのイメージがつきまとった。私たちは、「心からわかりあう関係を作りなさい」「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」と教え育てられてきた。

しかしもう日本人は心からわかりあえないのだ……と言ってしまうと身もふたもないので、たとえば高校生たちには、私は次のように伝えることにしている。

「心からわかりあえないんだよ、すぐには」

「心からわかりあえないんだよ、初めからは」

この点が、いま日本人が直面しているコミュニケーション観の大きな転換の本質だろうと私は考えている。

心からわかりあえることを前提とし、最終目標としてコミュニケーションというものを考えるのか、「いやいや人間はわかりあえない。でもわかりあえない人間同士が、どうにかして共有できる部分を見つけて、それを広げていくことならできるかもしれない」と考えるのか。

「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」という言葉は、耳に心地よいけれど、そこには、心からわかりあう可能性のない人びとをあらかじめ排除するシマ国・ムラ社会の論理が働いてはいないだろうか。

実際に、私たちは、パレスチナの子どもたちの気持ちはわからない。アフガニスタンの人びとの気持ちもわからない。

しかし、わからないから放っておいていいというわけではないだろう。価値観や文化的な背景の違う人びとも、どうにかして共有できる部分を見つけて、最悪の事態である戦争やテロを回避するのが外交であり国際関係だ。

好むと好まざるとにかかわらず、国際化する社会を生きていかなければならない日本の子どもたちに、より必要な能力はどちらだろう。もちろん協調性がなくていいとは言わないが、日本の子どもたちは世界標準から見れば、まだまだ集団性は強い方だ。ならばプラスαの能力として、これからの教育が子どもたちに授けていかなければならないのは、この「社交性」の方なのではないか。

（平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』講談社現代新書、二〇一二）

【設問】 筆者はこれからのコミュニケーションのあり方について「協調性から社交性へ」と提案している。本文の趣旨を踏まえた上で、筆者の提案に対するあなたの考えを書きなさい。その際、あなた自身の具体的な体験を挙げること。なお、字数は六百字以上八百字以内とします（句読点などの記号や空白も字数に含む）。